

目的 薄物素材の縫製での問題点としては、シームパッカリングをあげることができ、そこで薄物素材に適した縫製条件を求めて実験を試みた。

方法 試験布には、一般にブラウスやワンピースドレスとして使用される薄地織物4種類を選び、ミシン糸には、ポリエステル糸80番を用いた。

実験I 好ましい縫い目を求めるために、A針目の大きさ、B針の太さ、C敷き紙の有無の3条件を取り上げ、布別に12通りの資料を作成した。この資料をもとに、縫い縮み率（シームパッカリング量）の測定と、官能検査を行なった。

実験II 縫い代の始末、および布端の始末の方法として、それぞれ4種類ずつを選び、それぞれに要した時間を測定しながら、資料を作成した。その資料をもとに、能率的で、かつ美的な始末の方法を、官能検査によって求めた。

結果 実験I 縫い縮み率の測定の結果は、どの針目でも、細めの針で敷き紙を用いれば、パッカリング量が減少する。また、敷き紙を用いなくても、粗めの針目で縫えば、シームパッカリング量が減少する傾向が見られた。

実験II 縫い代の始末では、縫い方列による使用時間、及び官能検査による評価も、ロックミシンが最も良く、布端の始末では、使用時間、官能検査とも巻きロックミシンが、最も良いという結果となった。

以上の実験結果を踏まえ、ワンピースドレスの実物製作を行なった。パッカリングも見られず、比較的良い結果が得られた。